



祐介の目

大田ゆうすけ
(福山市議会議員)

No.34

毎月1日号に掲載

であったからである。来年は敗戦から70年、あの戦争を「悲惨」とか「愚か」という一言で片付けてはならない。総力戦の末に敗れたが、祖国を守り世界の歴史を変えた彼ら英霊を顕彰しないでどうするつもりだ。

「永遠の四一」を出版

本を出版することがこれほど大変だとは思わなかった。資料収集・インタビュー・現地調査に3年、執筆と編集・校正に1年かかった。我ながら力作だと思つので、皆様にもぜひ読んでいただきたい。

「永遠の四一・取扱店」

福山健康舎(大田病院売店)
啓文社各店・TSUTAYA
各店・萬生堂(神辺)

さて、明治維新により譜代であった福山藩は没落し、さびれた城下町・福山の再生の切り札として明治四一年に誘致されたのが歩兵第四一連隊であった。以来、備後の郷土部隊として福山市の発展に貢献し、支那事変・大東亜戦争において郷土のために死力を尽くして戦った。現在の平和は彼らの犠牲のお蔭である。

ここまで言い切る理由は、四一連隊は二度全滅し、日本陸軍で最も酷使された悲運の連隊

英霊顕彰はただ祈りを捧げるだけでなく、父・祖父がいつどこで戦ったかという軍歴を調べて欲しい。これは県の社会援護課に問い合わせればわかる。墓参りに行ったら墓石の尖った軍人墓を探して、側面に彫つてある軍歴を読んでほしい。戦跡訪問もお勧めする。マレーシア、シンガポール、ニューギニア、レイテ島には私でもご案内できる。かつての戦場に当時の面影はほとんど残っていないが、現地の風土を知り、現地の食べ物を食べ、住民と交流すれば多くは親日的だ。郷土部隊の将兵がこの地で戦つたと思えば特別な思いも湧くだろう。

8月7日の夜は備後護国神社にて「みたま祭・前夜祭」が開催される。今年から多数の献灯された提灯を飾り、屋台を出して楽しいアトラクションも催し、英霊の皆様と杯を交わしたいと考えている。遺族でなくとも参加できるので、読者の皆様も参加してはいかがだろうか。